

三重県沿岸域における水産資源の資源評価体制構築事業

－ 一定置網漁獲統計調査 －

久野正博・岡田 誠

目的

定置網に関する詳細な漁海況情報を蓄積することにより、資源管理を行っていくための基礎資料とする。

方法

三重県内の大型定置網漁場のうち、相差・志島・片田・和具・阿曾・贅浦・方座・錦・島勝・九鬼1号・九鬼2号・早田・梶賀・阿田和1号・阿田和2号の15漁場を対象に平成26(2014)年10月～平成27(2015)年9月の魚種別漁獲量を調査した。

結果

詳細については平成26年度三重県ブリ定置漁獲統計で報告したので、以下は結果の概略を示す。

平成26(2014)年定置年度の総漁獲量は7,223トンで前年度比1.31倍であった。魚種別ではブリ(6kg以上の銘柄)が2,506トンで全魚種の34.7%を占めた。次いでサバが908トン、ワラサ(2～6kgの銘柄)700トン、マアジ662トン、シイラ417トン、マイワシ238トン、イナダ(0.5～2kgの銘柄)212トン、マルソウダ130トン、スルメイカ117トン、イサキ108トンの漁獲があった。漁獲量10トン以上の魚種の中で前年度と比較して漁獲が増加したのは、ハガツオ(前年度比26.1倍)、ヤリイカ(同4.4倍)、フグ類(同3.9倍)、イナダ(0.5～2kgの銘柄)(同3.2倍)、マルソウダ(同2.8倍)、マイワシ(同2.6倍)、ブリ(同2.4倍)、ムツ(同2.2倍)、マアジ(同1.6倍)、ワラサ(2～6kgの銘柄)(同1.6倍)、その他イカ類(同1.6倍)、その他アジ類(同1.4倍)、サワラ(同1.4倍)、ヒラメ(同1.4倍)、ヒラソウダ(同1.3倍)、ヒラマサ(同1.3倍)、マダイ(同1.2倍)、シイラ(同1.2倍)、ウルメイワシ(同1.2倍)であった。逆に減少した魚種は、マルアジ(前年度比13%)、アオリイカ(同61%)、サバ類(同63%)、イワシ類(同70%)、カワハギ(同73%)、カタクチイワシ(同77%)、タチウオ(同77%)、イシダイ(同79%)、イサキ(同82%)、スルメイカ(同84%)、メジナ(同85%)、スズキ(同90%)、カンパチ(同96%)であった。

ブリ(6kg以上)の全漁獲尾数は345,275尾(前年度比2.34倍)で、好漁が続いている近年の中でも突出して

表1. 全漁場魚種別漁獲量

| 平成26(2014)年10月～平成27(2015)年9月 | | | |
|------------------------------|---------|-----------|---------|
| 順位 | 魚種名 | 漁獲量(kg) | 相対度数(%) |
| 1 | ブリ | 2,506,004 | 34.696 |
| 2 | サバ | 907,927 | 12.571 |
| 3 | ワラサ | 699,605 | 9.686 |
| 4 | マアジ | 662,379 | 9.171 |
| 5 | シイラ | 416,818 | 5.771 |
| 6 | マイワシ | 238,447 | 3.301 |
| 7 | イナダ | 212,111 | 2.937 |
| 8 | マルソウダ | 130,039 | 1.800 |
| 9 | スルメイカ | 116,702 | 1.616 |
| 10 | イサキ | 108,269 | 1.499 |
| 11 | カマス | 83,869 | 1.161 |
| 12 | サワラ | 82,089 | 1.137 |
| 13 | イワシ類 | 75,633 | 1.047 |
| 14 | カタクチイワシ | 64,165 | 0.888 |
| 15 | ハガツオ | 59,327 | 0.821 |
| 16 | マダイ | 54,918 | 0.760 |
| 17 | ムツ | 53,854 | 0.746 |
| 18 | ヒラマサ | 48,134 | 0.666 |
| 19 | その他イカ類 | 46,427 | 0.643 |
| 20 | ヒラソウダ | 45,549 | 0.631 |
| 21 | フグ類 | 41,486 | 0.574 |
| 22 | イシダイ | 35,327 | 0.489 |
| 23 | マルアジ | 33,645 | 0.466 |
| 24 | その他アジ類 | 31,447 | 0.435 |
| 25 | アオリイカ | 27,796 | 0.385 |
| 26 | スズキ | 22,424 | 0.310 |
| 27 | ウルメイワシ | 22,085 | 0.306 |
| 28 | ヒラメ | 20,328 | 0.281 |
| 29 | マグロ類 | 19,350 | 0.268 |
| 30 | ヤリイカ | 18,901 | 0.262 |
| 31 | カンパチ | 18,537 | 0.257 |
| 32 | タチウオ | 16,840 | 0.233 |
| 33 | メジナ | 15,379 | 0.213 |
| 34 | カワハギ | 13,610 | 0.188 |
| 35 | ウスバハギ | 4,401 | 0.061 |
| 36 | トビウオ | 3,810 | 0.053 |
| 37 | ウマヅラハギ | 3,646 | 0.050 |
| 38 | ボラ | 2,723 | 0.038 |
| 39 | カジキ類 | 2,083 | 0.029 |
| 40 | ヨコワ | 750 | 0.010 |
| 41 | シマアジ | 258 | 0.004 |
| 42 | その他雑魚 | 255,578 | 3.539 |
| | 合計 | 7,222,669 | 100.000 |

多く、昭和 30 (1955) 定置年度以降では最も多い漁獲尾数であった。漁場別の漁獲尾数では片田の 72,456 尾が最高で、次いで島勝の 69,030 尾、早田の 42,287 尾、梶賀の 39,926 尾、九鬼 1 号の 37,700 尾、錦の 25,467 尾であった。他に九鬼 2 号、和具で 1 万尾を越えた。ブリのまとまった入網は春季に集中してみられた。3 月から 4 月の好漁が顕著で、4 月だけで全体の 58%、3 月～4 月では全体の 89% が漁獲された。5 月の漁獲は前年を下回った。全漁場合計の 1 日の最高漁獲尾数は 4 月 23 日の 25,092 尾、次いで 4 月 12 日の 19,823 尾、4 月 6 日の 18,091 尾、4 月 8 日の 17,234 尾であった。他に 4 月 15 日、3 月 27 日、4 月 26 日と 4 月 22 日に 1 日で 1 万尾以上の漁獲があった。1 漁場における 1 日の最高漁獲尾数は片田の 7,240 尾 (3 月 27 日)、次いで島勝の 6,115 尾 (4 月 8 日)、同じく島勝の 6,064 尾 (4 月 24 日) と 6,047 尾 (4 月 15 日)、九鬼 1 号の 5,987 尾 (4 月 15 日)、梶賀の 5,357 尾 (2 月 18 日)、島勝の 5,267 尾 (4 月 12 日) であった。

ワラサ (2～6 kg 未満) の全漁獲尾数は 155,909 尾 (前年度比 1.63 倍) で、最近 10 年では平成 18 (2006) 定置年度に次ぐ好漁であった。ワラサの入網は 5 月に最も多く、全体の 34% の漁獲があり、3～5 月では全体の 78% の漁獲があった。漁場別の漁獲尾数では片田の 39,569 尾が最も多く、次いで梶賀の 37,047 尾、島勝の 21,567 尾であった。全漁場合計の 1 日の最高漁獲尾数は、5 月 6 日の 9,388 尾であった。次いで 5 月 5 日の 9,211 尾、5 月 7 日の 7,685 尾、4 月 27 日の 6,370 尾であった。1 漁場に

おける 1 日の最高漁獲尾数は、梶賀の 5,092 尾 (3 月 18 日)、次いで同じく梶賀の 4,411 尾 (5 月 7 日)、島勝の 4,144 尾 (5 月 6 日) であった。

イナダ (0.5～2 kg) の全漁獲尾数は 183,144 尾 (前年度比 3.1 倍)、当歳魚が主体となる 8 月～9 月を入れない集計期間では 137,609 尾 (前年度比 2.5 倍) であった。漁場別の漁獲尾数では島勝の 77,569 尾が最高で、次いで和具の 36,731 尾であった。1 漁場における 1 日の最高漁獲尾数は、和具の 9,853 尾 (4 月 26 日)、次いで島勝の 9,059 尾 (4 月 26 日)、同じく島勝の 8,255 尾 (9 月 4 日)、8,254 尾 (9 月 18 日)、阿曾の 8,066 尾 (4 月 12 日) であった。

ブリ類以外の魚種では、サバの 908 トンが最も多く、次いでマアジの 662 トン、シイラの 417 トンで、ブリとワラサを加えて漁獲量の多い 5 種の順位は前年度と同じであった。

また、サワラが 82.1 トンの漁獲量で、2 年前の 76.3 トンを超えて、昭和 46 (1971) 定置年度以降で最高の漁獲量であった。ハガツオも過去最高の 59.3 トン (前年度比 26.1 倍) の漁獲があり、そのうち 75% にあたる 44.4 トンが 12 月に集中して漁獲された。

関連報文

三重県 (2016) : 平成 26 定置年度 三重県ブリ定置漁獲統計。